週刊
世界と日本
昭和47年4月10日創刊
発行所 ©㈱内外ニュース
東京都千代田区永田町2−17−17
〒100−0014 電話(03)3580−1264㈹
FAX(03)3508−1070
E-mail:tokyo@naigainews.jp
URL https://www.naigainews.jp/
発行・編集人 紺田康夫
月曜日(第1・3)発行
購読料送料とも前納16,500円(消費税込)
郵便振替口座 00190−7−54604

目次

2面 『激変する世界情勢と落日のドイツ』—日本が探るべき独自外交への道— ……川口マーン惠美
3面 衆参補選、統一地方選結果をどう見るか ……伊藤達美
4面 マスメディア批判 ……千野境子
4面 マスメディア批判 ……濱口和久

台湾は侵略に反対、平和こそ国際社会の核心的利益

台北駐日経済文化代表処代表 謝長廷

台湾が重要な役割果たすサプライチェーンの再編

3月31日、「環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定」（CPTPP）の加盟国はイギリスの加盟に合意した。CPTPPが求めるハイレベルな条件に合致するよう近年改革を進めてきた台湾は、一昨年9月にCPTPP加盟申請を提出しており、台湾の加盟についても一日も早く認められることを期待している。

分業と信頼と自由貿易に基づくグローバル化は近年、機密流出、ハイテクの軍事転用、制裁の政治利用などのリスクを回避するため、経済安全保障が重視されるようになり、サプライチェーンの再編が進められている。台湾は先端技術を持つ経済体であるのみならず、信頼できる国際社会のパートナーであり、民主主義陣営の一員として世界に貢献できる。

経済繁栄は平和の賜物

東アジアではこの70年余り、大規模な戦争が発生せず、平和が続いたことが各国の経済発展につながった。経済繁栄は平和の蓄積の賜物だといえる。逆に戦争は、一瞬にして積み上げてきた経済と安定した社会を破壊してしまう。

とくに世界は緊密にグローバル化しており、ロシアによるウクライナへの軍事侵略が、ウクライナの国土を破壊したのみならず、日本をはじめ多くの国々の物価上昇を招いたように、いかなる地域の戦争も全世界の発展に影響を及ぼすことになる。とりわけ台湾は最先端の半導体工場が集積しており、もし台湾有事が発生すれば、世界経済に及ぼす影響は計り知れない。

台湾は長年にわたり、中国からの軍事脅威に直面している。中国共産党は台湾を中華人民共和国の一部と主張し、台湾が統一を拒否し続けたら、武力統一を排除しないとしている。しかし、歴史的事実を見れば、台湾が中華人民共和国に統治されたことは一度もなく、台湾の民意の大多数は統一ではなく現状維持を望んでいる。台湾の蔡英文総統は中国に対して、対等と尊厳の原則の下での対話と交流を呼びかけている。

今日、台湾海峡が世界から注目され、緊張がエスカレートしている主な要因は、権威主義体制を強化している中国の習近平国家主席が台湾に対する武力統一の立場を放棄せず、台湾に攻め込む準備を続け、国際社会に多大な不安と対立を引き起こしているからだ。最近も、蔡総統が米国に立ち寄った際にマッカーシー米下院議長と会談したことを口実に、中国軍が台湾を包囲するように空母も動員して軍事演習を実施し、空と海から台湾を威嚇した。仮に中国が統一の名の下に台湾に武力行使すれば、それは台湾に対する一方的な侵略にほかならない。

平和こそ国際社会の核心的利益

中国は台湾を譲ることのできない「核心的利益」と主張するが、国際社会にとっては平和こそが「核心的利益」だといえる。平和を守ることとは、侵略戦争を発生させないことであり、一方的な武力による現状変更の行為に対して国際社会は一致して断固反対しなければならない。さもなければ、強国による小国への野蛮な侵略が見逃され、国際秩序が崩壊してしまいかねない。

そして、平和は愛であるが、愛するふるさとや大切な人を守る力がなければ悲劇となる。抵抗する力がなければ平和は脆く崩れ、投降すれば運命は他人に握られ、自己の理想を実現する術を失う。尊厳ある生存こそが重要なのであり、力の均衡を保つ必要がある。

台湾は防衛力強化に最善を尽くすと同時に、米国や日本と安全保障面でも協力を促進し、抑止力を高めていくことが緊急の課題となっている。侵略戦争に支払うコストの高さが理解されれば、無謀な侵攻が抑止され、戦争予防と平和の維持につながるからだ。

民意こそ国を動かす

侵略戦争を未然に防ぐためには、軍事力だけでなく、外交力と民間の力も必要である。外交面では民主主義国家が一致団結し、孤立や分断を招かないようにし、尊厳ある対話を通して平和を創出していく努力を続けていかなければならない。

民間の力とは、民意こそ国を動かすということである。民主主義国家だけでなく、権威主義国家の政府も民意は無視できない。権威主義国家が言論統制しようとするのは、過剰なほど民意を気にしていることの裏返しである。戦争は民族の滅亡や国家の孤立化、排除化を招く恐れがあり、大切な家族や友人の命を奪い、さらには自らの命も危険にさらされる。これは戦争を発動した国の人々もそうであり、侵略戦争に英雄や勝者はいないという真相をより広く伝えることができれば、平和を希求する力をもたらすであろう。

国際機関の台湾排除見直しを

国連は1971年の2758号決議（アルバニア決議）により、中華人民共和国の国連加盟と中国の代表権を認めたが、中華人民共和国に台湾の代表権を与えたものではない。国連における台湾代表権については未解決のままである。台湾は世界保健機関（WHO）、国連気候変動枠組み条約（UNFCCC）、国際民間航空機関（ICAO）、国際刑事警察機構（ICPO）などの国際機関への意義ある参加を求めているが、中国が「一つの中国原則」を各国に押し付けて台湾の参加を妨害しているため、台湾は国連関連活動や国際機関に十分な参加ができず、国際社会との連携や情報共有に不便が生じている。

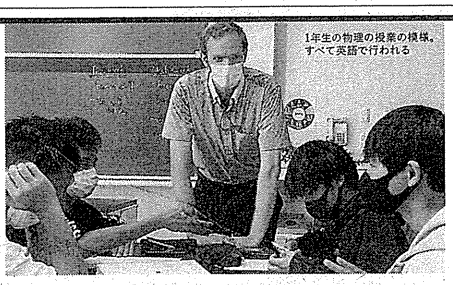
いま一度、国連憲章の理念に立ち返り、国際法の遵守、国連憲章の遵守を推進し、平和的手段により紛争を解決し、武力による解決を容認しないことを国際社会が改めて確認する必要がある。中国の圧力で台湾を地理的空白にすることがあってはならない。

《しゃちょうてい》 1946年台北市生まれ。国立台湾大学卒業。大学在学中に弁護士試験をトップの成績で合格。司法官試験も合格。74年日本・京都大学法学修士課程修了。台北市議会議員、立法委員（国会議員）、高雄市長を歴任。民主進歩党主席、行政院長（首相）、2007年第12代総統選挙民主進歩党候補者、16年6月より現職。

一味清風

中国江南省安陽で発見された『三国志』の英雄曹操の墓に美術館がオープンしたという報道があった。ユニークなのは、曹操の詩を間違いなく暗唱した人は入場料をタダにするという点だ▼曹操は文人としても知られていて数々の名詩を残している。中でも人口に膾炙しているのが「短歌行」で、冒頭の「酒に対して当に歌うべし、人生幾何ぞ」は中国人なら誰でも知っている。暗唱するのがこの詩だとしても、四言で四句ずつ、八つの段落で構成されているから全文128文字だ。簡単に諳んじられるものではない▼近年ネット社会化で何でもすぐ取り出せるから何も記憶する必要がないという考え方もある。しかし、筆者はそうは思わない。暗唱し記憶することによって脳に言葉のネットワークが形成され、それによって人は自分の考えを構築し、表現することができるからだ。この暗唱の大切さが失われていくことを危惧するのは、筆者ばかりではないだろう。（船橋 晴雄）

世界Top50に入る海外名門大学への進学も夢じゃない！
国際高専は15歳から英語で、数学や物理、化学、生物、コンピュータやロボット工学を学びます



2023年度イベントスケジュール
■オンライン進学説明会｜6月24日(土)
■オンライン進学説明会＋学校見学会｜7月22日(土)
■オープンキャンパス｜8月5日(土)・6日(日)
※変更になることがあります。WEBにてご確認ください。

「QS世界大学ランキング」45位のUNSW（オーストラリア）に合格した学生へのインタビューやオープンキャンパスなどイベント情報はこちら

ICT 学校法人金沢工業大学 国際高等専門学校
金沢キャンパス 石川県金沢市久安2-270 Tel.076-248-9840
白山麓キャンパス 石川県白山市瀬戸辰3-1
国際高専入試センター admissions@ict-kanazawa.ac.jp
併設校の金沢工業大学は、第1回「ジャパンSDGsアワード」SDGs推進副本部長（内閣官房長官）賞を受賞した、日本を代表するSDGs推進高等教育機関です。